



GRIFFINS

AUTUMN GAME 7th 2025年11月9日(日)K.O10:00 天候・雨 場所:横浜スタジアム

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
東京大学 WARRIORS	3	7	7	7	24
明治大学 GRIFFINS	7	21	7	7	42

1Q

明治のキックで試合開始。明治ディフェンスは堅実に進めてくる東大オフェンスに苦戦し、自陣10ヤード以内への侵入を許すも、相手の反則や#50水野のQBサックにより、失点を3点に抑える。

その直後、#21高橋が69ydのタッチダウンランを決め、逆転に成功。

その勢いのままディフェンスも東大オフェンスを3プレーでシャットダウン。さらに、第1Q終了間際にも#21高橋が自陣23ydからのロングランでチャンスを作った。

グリフィンズ7戦目は、東京大学WARRIORS

**2Q**

1Q終了間際の#21高橋のロングランから再びラン攻勢に出る明治。

東大ディフェンスも粘るが#21高橋が押し込みタッチダウン。点差を広げます。しかし明治ディフェンス、要所の攻撃を止めきれずタッチダウンを取られてしまう。その次のオフェンスでは最初のプレーでQBサックを許すなど悪い流れが漂い始めるが、ここも#21高橋の63ヤード独走タッチダウンで一気に打開する。その流れにのったディフェンスは直後、#3岡田のインターセプトで試合を決定づける。敵陣6ヤードからという絶好のフィールドポジションから#5宇野が敵の間をすり抜け、冷静にタッチダウン。さらに点差を付ける。





3Q

後半は互いに攻撃を応酬する展開となる。明治は#15新楽から#18杉崎へのパスを足がかりにファーストダウンを重ねて敵陣4ydまで進み、再び#21高橋タッチダウンでリードを拡大。

しかしその後は東大に連続でファーストダウンを奪われ、タッチダウンを許す。攻撃権が明大に渡ると東大のアジャスト力が光り明治オフェンスは押さえ込まれてしまう。だが、時間を使わせながら守れすることでオフェンスにも良い流れを作れ、ディフェンスの粘りが見られた。

追い上げを受ける形となつたが、チームは引き続き集中を保つた。



4Q

試合が残り3分ほどになったタイミングで再びタッチダウンを許したもの、敵陣42ヤード地点から#21高橋がロングラン。敵陣でダウンし、時間を稼ぎながらタッチダウン。残り1ヤードを#87佐藤が押し込みダメ押しのタッチダウンを決め、勝利を確実なものとした。試合は二ーダウンで締めくくられた。



◆東大戦を振り返って

東大戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました

◆インタビュー #3 岡田 直也 (LB)



■東京大学と対戦した印象

ランプレーが複雑で、着実にゲインを重ねてくる印象です。それに加えて、今年はパスの精度も高く、大事な局面では確実に決めてくる印象がありました。

■東大戦の反省

試合前はまず自分の役割をしっかり見ることを意識していましたが、実際には相手にブロックされてしまったり、逆サイドの集まりの際のパシュートコースが悪かったりと、細かい部分を含めて反省点が多くありました。練習から一つずつ改善していきたいです。

■次戦への意気込み。

準備期間は短いですが、少しでも成長してチームの勝利に貢献できるよう努めたいです。

◆インタビュー #62 鈴木 鷹良 (OL)



■東京大学と対戦した印象

東大ディフェンスは割と振り切ったプレーを入れてくることがありました。DLは縦の差しが速いのが厄介でした。

■東大戦の反省

オフェンスは全部で20プレーのみで、自分はあまり納得のいくプレーができなくて、他の人に頼る場面が多かったです。

■次戦への意気込み

関西大学は全てにおいてハイレベルで、簡単に勝てる相手ではないと思うので、今ある課題を無くし、チームに貢献できるよう頑張ります。

◆インタビュー #97 山本 隼輔 (DL)



■東京大学と対戦した印象

巧みなオプションプレーを使ってくる。

■東大戦の反省

自分に与えられている役割を守りきれなかったことがあった。

■次戦への意気込み。

関大は去年の春に一度やった相手だからこそリベンジに燃えています。



明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS

2025年度11月号-2-4

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンズ父母会



■次戦

2025年11月22日(土) 14:00 K.O. 富士通スタジアム川崎にて関西大学との対戦です。

次戦は、明治大学悲願の学生日本一に向けて負けられないトーナメントの初戦。
関西勢相手にどのように明治の持ち味を出していけるかに注目です。

関大戦の勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！

GRIFFINSを皆様の熱い応援でサポートしましょう！

Go ! GRIFFINS.



主将・高橋周平選手 ラッシングヤード・TD数で歴代最多記録の樹立 －インタビューを行いました－

今季ランで1,401ヤードを獲得し、1シーズンのラン獲得最多記録を更新した主将・高橋周平選手に、一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟からリーグ戦特別賞が贈られました。

また高橋は、最終節・東京大学戦で293ヤードを走り、合計1,401ヤードとして、1999年に弊部OB・瀬川圭介氏が打ち立てた1,260ヤードの歴代最多記録を塗り替えました！

さらに、本日の4タッチダウン（TD）で合計21TDを記録し、2005年に法政大学・丸田泰裕氏が樹立した19TDのリーグ記録も更新しました！



Q1. 記録達成の瞬間、どんな気持ちでしたか？

A. 達成の瞬間は知りませんでした。後から聞いて率直に嬉しいなという思いと、感謝の思いが強かったです。

Q2. 主将として、チーム作りで意識していることは？

A. ユニットとしての一体感と、フィニッシュの徹底は特に意識しています。

Q3. 日々の練習で大切にしていることは？

A. ODK関わらず全てのプレー、メニューでスタートからフィニッシュをごだわらせています。

Q4. 支えてくれた方々への感謝をお願いします。

A. 両親もそうですし、いつも応援してくれている方々や支えてくれている選手スタッフ全ての方のおかげでプレーできています。その方々の思いを背負って責任を持ってこれからも走っていきます。

Q5. 次戦への意気込みを教えてください。

A. 秋の関西と試合ができるということがとても楽しみです。自分たちが今季やってきたことを全て出し切ります。

Q6. 最後に後輩たちへ。

A. 大事なことは何よりも継続だと思います。痛くても辛くても苦しくてもいつも通り継続です！常に貪欲に戦ってくれることに感謝しています。